

多賀工業会

中部支部会報

2025年4月 第12号



陶芸で巡る世界遺産シリーズ：聖ソフィア聖堂(ウクライナ・キーウ)

1037年建造。東ローマ(ビザンツ)帝国とロシア式の様式が融合したウクライナの代表的な建築様式。
塔頂に金色のドームを冠する。
1990年 世界遺産に登録。ロシアとの戦争により
2023年9月「危機遺産」に指定。

縮尺 1/75 仕上寸法 72×56×40cm
陶芸制作年 2023年 佐藤 博泰氏 学金属S37

【巻頭言】



多賀工業会 中部支部
支部長 菅谷伸夫
(学機械 S45(1970)年)

【3.11】14年目の思い

毎年、3月11日を迎えるとニュースやメディアでは東日本大震災後の被災地域の復興状況を報告しています。甚大な被害を受けた地域や被災者の思いは14年という月日の中で少しずつ変化している気がします。

地域復興という観点では住宅の再建、インフラ整備(防災潮堤、交通機関等)に膨大な資金を投じて少しずつではありますが進捗しています。これらはいずれもハード面の対応です。過去の大震災(阪神・淡路大震災、熊本大震災等)に比べて復興の進みは必ずしも早いとは言い難いと思います。一方、ソフト面では未だ多くの地域住民が避難生活を余儀なくされ故郷に戻ることができず、震災前の地域社会とは程遠いのが現実です。この最大の要因は福島第一原発の爆発事故であり、広大な地域が高濃度の放射能に汚染されたことにあると考えられます。大部分の土地は汚染除去されたものの未だ帰宅困難地域もあります。このような現況では「安心・安全な地域」として住民には受け入れ難いと言えます。更に、原発の廃炉に至っては途方もない時間と莫大なお金(約 20 数兆円)が必要とされています。昨年、ようやく 5 ミリ程度のデブリ(炉心溶融物)を取り出すことができましたが約 880 トンを取り出すには、未だ明確な除去方法が確立されていなく見通しすることはできません。

そして、汚染土壌の最終処分方法も未定、デブリの処分方法も未定という現実では地域住民のみならず国民の安心・安全な生活は保障できるのでしょうか？

日本は火山国、地震国であり近い将来東南海地震や首都直下型地震の発生が予測されています。これらの地域には多くの原発設備があり、福島への二の舞になる危険性もあります。事故が起こってからでは手遅れであり原発依存からの脱却が必要と思われれます。しかし、東日本大震災以降の国のエネルギー基本計画には「可能な限り原発依存度を低減する」と明記されていましたが、今年2月の「第7次エネルギー基本計画」では既存原発の活用として8%から20%に増大させるとなっています。この方針変更は本当に国民の総意なのでしょうか？ 2050年のカーボンニュートラル、CO₂ 低減、温暖化の抑制という目先の対応と思われれます。原発に代わる電力には火力発電、再生可能エネルギー発電があり、国策として確固たるビジョン・指針を提示して、日本の英知(産・学・官)を結集して一大プロジェクトとして取り組めば、発電技術開発は

飛躍的に向上し、世界をリードできる脱原発／再生エネルギー技術立国になると思います。火力発電も従来の化石燃料から新しい燃料に代替えを進めれば必ずしも削減していく必要は無いのではないのでしょうか。

アンモニアや水素を用いた発電技術開発が進められています。最近のニュースでは福島県浪江町では原発依存から脱却し、水素エネルギープロジェクトの実証実験を進めているのを見ました。浪江町は原発事故で大きな被害を受けた所であり、その教訓を基に取り組んだプロジェクト推進は素晴らしいことだと思います。このような次世代のエネルギー政策は一地方自治体や企業だけでは限界もあり、国策として推進すべきものではないのでしょうか。要は地域特性に合わせて火力発電や再生可能エネルギー発電を効率的・有機的に補完したシステムが必要ということです。

最近、AI の普及、DX(デジタル・トランスフォーメーション)普及、大規模データセンターの設立等により電力需要増大がありますが、安易に原発回帰に走るのではなく新しい電力システムの構築と強力な国の推進が求められます。

我々の子や孫の世代において30年～50年先を見据えて「安心・安全で活力のある新しい日本」を次世代に引き継ぐ事が我々の使命であり責任だと思います。

筆者プロフィール:

菅谷 伸夫

S 4 5 年 □工学部□機械科卒

同 トヨタ自動車株式会社入社

現在の趣味、ゴルフ、JAZZ、真空管アンプの自作など。

年金生活でのんびり過ごしています。

茨城大学 多賀工業会 中部支部 2024年度(第34回)同窓の集い(総会・懇親会)

多賀工業会 中部支部
幹事長 藤田 恭弘
(学電子 S63(1988)年)

令和6年(2024年)7月6日(土)、第34回同窓の集い(総会・懇親会)が、開催されました。コロナ禍の3年間休会を余儀なくされ、2023年7月に再開された当会が、2年連続で開催できたのは、誠に喜ばしいことと思います。当日は、折からの猛暑の中にもかかわらず、参加者も前年の12名より増加し、総会が17名、懇親会は22名となりました。数年前より、「同窓の集い」として、学部学科にかかわらず参加していただけることとしてきましたが、今回も工学部以外から4名の参加をいただきました。それでは、当日の様子をご紹介します。

<総会>

- ・日時:7月6日(土)13:30～
- ・場所:ユニモール桜ビル3階「イールーム名古屋駅前B」(貸会議室)

会場は、名古屋駅近くの貸会議室をお借りしました。開催については4月13日(土)に開催した当支部の役員会にて、本部や他支部からの来賓はお呼びしないことを決めていましたので、いつも顔を合わせるメンバーで和気あいあいとした雰囲気での始まりました。

会の冒頭で、訃報のご連絡をいただいた中原 崇文様(2023年6月逝去)のご冥福を祈念して、参加者一同、起立して黙祷。続いて、菅谷支部長より開会の挨拶、議事へと進み、最後に集合写真を撮り、概ね1時間で閉会しました。

議事内容は、次ページ以降に資料を掲載いたしますので、ご参照いただければと思います。

会場は、先述の通り名古屋駅近くの貸会議室をお借りしましたが、初めての利用だったこと



や、貸しビルの一室だったこともあり、場所が分かりにくいとのご指摘がありましたがそれでも、全員が場所を探し当て集まることができました。



<懇親会>

・日時:7月6日(土)15:00～

・場所:大名古屋ビルヂング3階「ビストロ ルバープ」

菅谷支部長の乾杯のご発声で会はスタート。総会とは場所を移して、近くのレストランを貸し切りで利用しました。先にも書きましたが、学部・学科に関わらずご参加いただく会ということで、野崎さんの奥様(教育学部出身・参加2回目)、安井さんの奥様



(教育学部出身・参加2回目)とお子様3名、神ひろしさん(人文学部出身・初参加)も合流して、総勢23名の盛会となりました。工学部以外の学部からも5名の方が参加しました。コロナ禍に入って以来、久しぶりに参加される方もあり、ここ数年の間に起こったこと、最近始めたこと、職場のこと、、、話に花が咲きました。



小田中さんによる締め挨拶

最後に、最若手の小田中 竜二さんが締めのご挨拶をされました。「大人数の先輩を前に緊張しています！」と話し始めましたが、しっかりとした挨拶で、ついでに後輩の学生たちの活動をPRして閉会となりました。



<補足>

締めのご挨拶をされた小田中 竜二さんから「挨拶代わりに・・・」とご紹介のPRがあったのは、現役の学生がレース車両を製作して製作技術や性能を競う『学生フォーミュラ大会』が、今年は愛知県常滑市の愛知県国際展示場で開催されることが決まった、我が茨城大学も出場する予定、という案内でした。

それで、大会が開催された9月に会場に行ってきました。

茨大チームの車は、ブラックの引き締まったデザインでした。中盤まで好成績でしたがマシントラブルに見舞われ、残念ながら途中棄権でした。

・・・次に繋がる経験値を得たものと思います(小田中さん談)。



茨大チームの車両



文字が読みにくいですが中段に茨大チームのラップタイム

茨城大学 多賀工業会 中部支部
2024年度(第34回)同窓の集い(総会・懇親会)

2024年7月6日(土)

◆日時 2024年7月6日(土) 13:30~17:00
(総会:13:30~14:30 懇親会:15:00~17:00)

◆場所 総会: 会議室イールーム名古屋駅前B
名古屋市中村区名駅4-5-26 ユニモール桜ビル 3F
(名古屋駅徒歩7分 ユニモール地下街7番出口 前)
懇親会: ビストロ RHUBARBE (ルバーブ)
愛知県名古屋市中村区名駅3-28-12 Tel:050-5596-1839
(名古屋駅徒歩5分 大名古屋ビルディング 3F)

【1】総会 13:30~14:15

(1) 開会の辞

黙祷

・昨年の総会(2023年7月)以降、1名の訃報に接しました。

中原 崇文 様 2023年6月

謹んでご冥福をお祈りします。

(2) 支部長挨拶

・支部長 菅谷 伸夫

<議長選出>

(3) 議事<報告、審議>

①2024年度会計報告と会計監査資料①

②近況報告・事業報告資料②

○本部関係

○中部支部関係

③2024年度総会出席者ご芳名資料③

③会員状況資料④

案内への返信メッセージからピックアップ

⑥同好会活動報告資料⑤

・ゴルフ同好会

⑦2024年度役員、幹事資料⑥

⑧2025年度役員、幹事(案)資料⑦

⑨2025年度事業計画(案)資料⑧

<議長解任>

(5) 閉会の辞

【2】記念写真撮影 14:15~14:30

～ 場所移動 ～

【3】懇親会 15:00~17:00

多賀工業会 中部支部 関連情報

～ この1年間の主なトピックス ～

<本部関係>

- (1) 2023年11月 事務局担当者交代
稲見氏 ⇒ 安部氏

- (2) 2023年7月 理事会にて副会長の交代
鈴木 孝三氏(関西支部) ⇒ 萩原信男氏(関西支部)
中部支部～九州支部(遠方支部)を担当
- (3) 2023年11月 2023年度「工学祭」開催
- (4) 2024年2月 多賀工業会会報への「支部便り」を寄稿
⇒ 5月発行
- (5) 2024年3月 多賀工業会 理事会
メール審議形式で開催 ⇒ 審議案件は承認
〔 役員、功労会員、2023年度収支報告 〕
〔 同 会計監査報告2024年度収支予算審議 〕
- (6) 2024年6月 2024年度 理事会&総会(メール審議)
会長、副会長、理事の選任他

<中部支部関係>

- (1) 2023年7月 本部より援助金受領
- (2) 2023年10月 関西支部/中部支部懇親ゴルフ大会
滋賀県信楽カントリー倶楽部にて開催
参加メンバーの高齢化などに伴い、これを以て最終回とした。
(これまで10回開催し、通算5勝5敗)
- (3) 2024年2月 会報発行打合せ
主にメール審議形式にて、ページ構成・寄稿依頼などの
基本方針を打合せ。
- (4) 2024年4月 会報発行
報告事項や寄稿原稿をとりまとめ印刷・製本(116部)
於:岡崎市立中央図書館交流プラザ
- (5) 2024年4月 2024年第2回幹事会
於:名古屋市特殊陶業市民会館
会計中間報告、主なトピックス報告
会報の準備状況報告、同窓の集いについて

多賀工業会中部支部 2024年度(第34回)「同窓の集い」出席者ご芳名

「同窓の集い」出席者(敬称略、順不同)

1	佐藤 博泰	学)金属S37(1962)	東海市	愛知製鋼OB
2	廣木 則男	学)電気S41(1966)	春日井市	鹿島建設OB
3	佐藤 淳一	学)機械S43(1968)	可児市	KYB OB
4	小川 剛雄	学)電気S44(1969)	桑名市	東芝OB
5	菅谷 伸夫	学)機械S45(1970)	岡崎市	トヨタOB
6	佐々木芳雄	学)機械S48(1973)	岡崎市	トヨタOB
7	宇治土公 貞淳	学)精密S57(1982)	豊田市	トヨタOB
8	磯部 博行	学)精密S58(1983)	西尾市	デンソー
9	野崎 剛寿 奥様	学)機械S58(1983) 学)教育学部	豊川市	ニッセイ
10	樫村 徳俊	学)機械S61(1986)	名古屋市	愛知製鋼
11	諸戸 宏和	学)機械S61(1986)	豊明市	津田工業
12	蟹江 雅司	学)機械S63(1988)	名古屋市	トヨタ
13	藤田 恭弘	学)電子S63(1988)	日進市	中京テレビ
14	本田 知司	学)理学部 数学科H2(1990)	岡崎市	トヨタ
15	佐野 貴彦	学)電気電子H8(1996)	常滑市	ブラザー工業
16	安井 剛 奥様 お子様 3名	院)機械H17(2005) 学)教育学部	春日井市	KYB
17	小田中 竜二	院)理学部 物質量子H30(2018)	扶桑町	オークマ

合計 大人19名 子供3名
(今年は、本部・他支部からのご来賓はありません)

<会 員 状 況>

(2024年度「同窓の集い」への出欠連絡はがきからピックアップしました)

(**太字氏名は総会出席者、敬称略**)

氏名(敬称略)	学科・卒年	メッセージ
岡本 忠	(工専原動 1951)	曾孫(10人)の成長を楽しみに白寿の祝いを目指しております
松下 玉雄	(学電気 1958)	米寿を過ぎ老人1人暮らしです。
佐藤 博泰	(学金属 1962)	他の予定が定まらず、返信の遅れたこと申し訳ございません。
池田 廣治	(学金属 1963)	御盛會を祈念致します。
根本 弘	(学金属 1963)	急用のため出席できなくなりました。御盛會を祈念致します。皆様に宜しくお伝えください。
大井貞夫	(学電気 1964)	毎日、近くの公園を散歩し、春4月、5月には、桜の胸吹芽を切ったりしています。
高山 昭武	(学金属 1966)	80歳になりました。
佐藤 淳一	(学機械 1968)	健康に留意して、散歩、テニス、読書、俳句、などして日々生活を。 吾れ足ることを知るを銘として。
白井 弘道	(学工業化学 1966)	ジムで体力維持に努めていますが低下は著しいです。ご盛會を祈念致します。
熊沢 義之	(学機械 1967)	腰痛のため欠席させていただきます。
菅谷 伸夫	(学機械 1970)	多くの方が参加していただけることを期待しています。
高島 俊之	(学機械 1970)	今年から3度目の神社のお役で忙しくしています。
佐々木 芳雄	(学機械 1973)	山登り(村積山)を3回/週実施し、囲碁を3回/週 行っています。
久米 治喜	(学化学1979)	ご盛會を祈念致します。
宇治土公 貞淳	(学精密 1982)	去年1年ゆっくりし、この2月から再就職し、大阪岸和田にたまに行きはじめました。
太田 晶久	(学機械 1983)	リタイア後、既に生産・販売されていないクラシックカーやラリー&ダート用ダンパーを 自宅工房で再生、O/H、チューニング、全国をレースサポートしながら楽しく過ごしております。
中村 元志	(学機械 1983)	既に予定が入ってしまっておりますので今回は欠席させていただきます。
野崎 剛寿	(学精密 1983)	楽しみにしています。※懇親会は、妻も出席しますので宜しく願います。
永井 浩美	(院機械 1987)	予定あるため不参加となります。
蟹江 雅司	(学機械 1988)	幹事業務、ありがとうございます。出席致します。
藤田 恭弘	(学電子 1988)	年に3~4回ぐらい、時間を見つけて旅行を楽しんでいます。12月で定年(60歳)です。
安井 剛	(院機械 2005)	3人の子どもたちと日々慌ただしく過ごしています。 同窓の集いでお会いできることを楽しみにしています。
鳥居 泰宏	(院機械 2009)	子供の世話のため、欠席させていただきます。次回以降、よろしく願います。
神谷 真弥	(院理工 2013)	最近あまり参加できておらず残念です。本年より欧州転勤となります。 3~4年の赴任となりますが、帰国後は参加させていただきたいと思います。
内藤 隼	(院理工 2017)	申し訳ありませんが都合がつかないので欠席とさせていただきます。

2024年度 多賀工業会中部支部 役員/幹事

(在住県) 役職名	<本部関係>	氏 名	学科・卒年	備 考
(愛知県) 支部長	<本部理事>	菅谷 伸夫	学機・45(1970)	
(岐阜県) 副支部長		佐藤 淳一	学機・43(1968)	
(愛知県) "		廣木 則男	学電・41(1966)	
(") 幹事長 (会 計)		藤田 恭弘	学子・63(1988)	
(") 幹事		佐々木 芳雄	学機・48(1973)	
(") "		佐藤 博泰	学金・37(1962)	
(") "		根本 弘	学金・38(1963)	
(") "		池田 廣治	学金・38(1963)	
(三重県) "		小川 剛雄	学電・44(1969)	
(愛知県) "		磯部 博行	学精・58(1983)	ゴルフ同好会幹事
(") "		中村 元志	学機・58(1983)	
(") "		野崎 剛寿	学精・58(1983)	
(") "		櫻村 徳俊	学機・61(1986)	
(") " (会計監査)		蟹江 雅司	学機・63(1988)	会計監査
(岐阜県) "		安井 剛	院)機H17(2005)	
(愛知県) "		佐野 貴彦	学子・H9(1997)	

<16名>

注記

◆会計業務の一元化を図るため、2020年8月より会計業務を幹事長に移管しています。

2025年度 多賀工業会中部支部 役員/幹事(案)

(在住県) 役職名	<本部関係>	氏 名	学科・卒年	備 考
(愛知県) 支部長	<本部理事>	菅谷 伸夫	学機・45	継続留任
(岐阜県) 副支部長		佐藤 淳一	学機・43	継続留任
(愛知県) "		廣木 則男	学電・41	継続留任
(") 幹事長 (会 計)		藤田 恭弘	学子・63	継続留任
(") 幹事		佐々木 芳雄	学機・48	
(") "		佐藤 博泰	学金・37	
(") "		根本 弘	学金・38	
(三重県) "		小川 剛雄	学電・44	
(愛知県) "		磯部 博行	学精・58	ゴルフ同好会幹事・継続留任
(") "		中村 元志	学機・58	
(") "		野崎 剛寿	学精・58	
(") "		檜村 徳俊	学機・61	
(") " (会計監査)		蟹江 雅司	学機・63	会計監査・継続留任
(岐阜県) "		安井 剛	院)機H17	
(愛知県) "		佐野 貴彦	学子・H9	

<15名>

注記

◆新規幹事候補については、トヨタ自動車の「高鈴会」、デンソーの「常盤会」のような社内同窓会等から候補を選出いただけるよう働きかけを継続していくこととします。

◆2024年度からの変更点

池田幹事より退任の申出があり、幹事会で審議。⇒ 退任とし補充を検討することとします。

多賀工業会 中部支部 ゴルフ同好会



磯部 博行
(S58 精密工学卒)

1. はじめに

'18年よりゴルフ同好会の幹事を仰せつかって早6年が過ぎました。関西支部との懇親ゴルフは昨年度で一旦終わることにはなりましたが、中部支部活動としてはメンバーも若返り(?)、今後も継続してゆきますので、ゴルフの好きな方は「ゆる〜い」会なので気兼ねなく参加頂ければと思います。

2. 第16回ゴルフ大会報告

第16回大会は、'24年10月26日(土) 名岐国際ゴルフ倶楽部 妻木コースにて秋晴れとはいかず少し曇りがちではありましたが、9名参加にて楽しく開催できました。

コースの特徴としては、全体的にフラットではあるものの、戦略性の高いホールがつづき、攻め応えがあるコースではありましたが、皆さん普段の実力を充分発揮され、コース設計者の罠に嵌って大きく崩れる様なこともなく、途中途中のカートでは順位が目まぐるしく変わるデッドヒートを楽しみながらのラウンドでした。(流石、皆さん工学部! 傾斜や風の強さ、力の計算はお手のものです)

結果は、計算通りに打つことができる「腕」を持った太田さん、菅谷さんが優勝、準優勝の栄冠と金一封を手に入れました。



順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	太田 晶久	45	42	87	15.6	71.4
準優	菅谷 伸夫	49	42	91	18.0	73.0
3	諸戸 宏和	43	54	97	22.8	74.2
4	宇治土公 貞淳	45	51	96	21.6	74.4
5	野崎 剛寿	48	48	96	21.6	74.4
6	中村 元志	49	49	98	22.8	75.2
7	磯部 博行	45	48	93	15.6	77.4
8	永井 浩美	50	54	104	26.4	77.6
9	本田 知司	47	48	95	15.6	79.4

3. 最後に

今年度は2回/年の開催を予定しており25年3月29日(土)に2回目を開催予定です。会報原稿締切の関係でお伝えできませんが、毎回楽しく和気藹々な会ですので、冒頭に“若返り”とは記しましたが、私含め再雇用者組が多くを占めています。

「参加してみようか」と思われた現役の方、「まだまだ若い者には」と思われた先輩方、如何ですか！



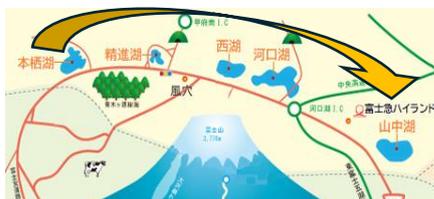
筆者プロフィール：磯部 博行
S 5 8 年 工学部精密工学卒
同 年 (株)デンソー入社

富士五湖周遊—新春の旅



佐藤 淳一
1968 機械卒
(S43)

ツアー企画の「富士五湖めぐり」があり、2家族計5名にて参加しました。富士山は東名高速・新幹線や飛行機にて見るばかりで、その近辺にある五湖はまったくそして季節的(12月31日及び1月1日)にも初めてで楽しみでした。



ご存知のように、自然鑑賞は成功の可否が天候次第ですが、運よく2日間とも暖かく晴天に恵まれ素晴らしかったです。

上記の地図のように、富士山を右回りにて順次富士五湖を回ります。

1. 本栖湖 2. 精進湖 3. 西湖 4. 河口湖 5. 山中湖です(右が東京側)。以下に順を追って見て頂きます。

No. 1



本栖湖の近く

No. 2



透明度が高い

No. 3



小さい湖

No. 4



ロープウェイ展望台から
遊覧船あり
山梨・石和温泉へも

No. 5



遊覧船や宿泊施設も
富士吉田近郊



富士宮市側より
浅間大社から

今年は雪が少ないようで7合目からの積雪でしたが、円錐山型で四方から見ても同姿で本当に美しくて日本の宝ですね。東海道から見えるのは No. 5 と最後の写真でしょうか。新年にて上記の浅間大社にて初詣をして来ました。

日の出の「ダイヤモンド富士」を見られれば最高でしたが、次の楽しみに！。感謝！！

筆者プロフィール: 佐藤 淳一
1968 (S43) 年 工学部機械科卒
同 株式会社菅場製作所入社
(現: KYB株式会社)
海外駐在 4カ国計 12年
2007 (H19) 年 KYB株式会社 退社
座右の銘: 我唯足知(京都・竜安寺の庭園)

趣味も大切かもしれません



中村 元志
1983 機械卒
(S58)

『ご安全に！』1983年機械学卒の中村元志です。

まず初めに、今回このような機会を与えてくださった皆さんにお礼を申し上げます、誠にありがとうございます。そして今から読んでくださる皆さん、本当にありがとうございます。今回は、趣味についてのお話をさせていただきますが、これはあくまでも中村の勝手な思いですので、皆さんは皆さんの思いを持って適当にあしらってください、よろしく願いいたします。

それでは、簡単な自己紹介です。私は卒業と同時にトヨタ自動車に入社し、主にエンジン、ミッション、HEVユニットの生産ラインを構築する仕事（生産技術）とその生産ラインを運営する仕事（製造工場）を担当させていただきました。1992年から1995年までと2003年から2008年までと、都合2回の北米駐在も経験させていただきました。そして2018年から愛知製鋼へ転籍させていただき、現在は製造全般と安全・品質を担当させていただいています。伝統的に残っている『鉄は国家なり』の考えを大切にしつつも、変革を推し進めることで、『世のため人のため』にお役に立てればと考えています。

さて前置きが少し長くなりましたが、そろそろ趣味のお話へ移行します。ところで皆さんにとって趣味って何でしょうか？中村はあまり多くの趣味は持ち合わせておりません。50歳くらいまでは、私の時代の多くの皆さんと同じように、平日は、昼間は製造工場でいろいろな現状調査やトライアルを行い、そして夕方事務所へ戻ってきて夜遅くまでオフィスワーク、休日や長期連休はというと製造工場が休みの時しか実施できない工程や設備の改善・改造工事にと、いい意味でも悪い意味でも、仕事に没頭してきました。ひとつ思い出しました。たしか1回目の北米駐在の時だったと思います。妻は私より1ヶ月くらい遅れで、小さな4歳の娘と2歳の息子を連れ、赴任してきてくれました。その後のクリスマスシャットダウンの時だったかなんかの時、妻にずばり言われました、『家族4人で北米へ赴任しても、やっぱり我が家は母子家庭だね。』と、ありがたいことです、妻のおかげで私は仕事に対して、好き勝手に思う存分に取り組ませていただきました。ですから二人の約束事として、私の妻は専業主婦なのですが、給料を稼いでいます、私が稼げたお給金の半分は妻が稼いだという事実です。

そんな時代を通り過ぎ、小さかった長女・長男も大学生になり、それぞれが家を出てからです。私も実務者から少し離れ、多少の時間的なゆとりもできてきましたし、妻と二人の生活に戻ったわけですから、何か二人で共通の趣味でもやろうか？と自然になりました。それならば、私が小学生から現在までもずーっと続けている剣道は？北米駐在時代にたまの日曜日の夕方ファミリータイムでやったゴルフは？と案はいろいろ出たのですが、どれもパツとしなかったようです。そんな折、一泊二日のバスツアーで黒部アルペンルートへ出かけた時、大きな50L、60Lクラスのザックを背負ったアルピニストを見かけ、たぶん何気なくだったと思うのですが、妻があんなこと、つまり山登りでもやってみたいということになり、登山をスタートしました。

まず登山の三種の神器である、登山靴・ザック・レインウェアを揃え、登山技術を少しずつ勉強し、低い山から登り始めました。八ヶ岳連峰ほどの山もアクセスが大変良いので、早朝からスタートすれば、山小屋泊やテント泊しなくて日帰りできますし、もちろん下山後の温泉も楽しみですから、ほとんど登り切りました。さすがに八ヶ岳連峰の最高峰である赤岳は、日帰り登山が難しかった（私たちの技術では）ため、一泊二日でしたが。中央アルプスの駒ヶ岳、北アルプスの白馬岳、立山、この辺では御在所、藤原岳、伊吹山、猿投山、本宮山、そうそう噴火の1年前に御嶽山にも登りました。その他マイナーな山もいろいろたくさん登ることができましたが、アクセスがあまり良くない南アルプスはまだほとんど行けていません。定年退職して体力が持ちそうで、時間にゆとりができれば、少しずつチャレンジしてみたいと思っています。山登りの何が楽しいかって？もちろん登りも下りもしんどいです、細心の注意を払わねばなりません、基本的には安全な登山は自己責任です。そのために登山技術を高め、体力づくりをします。でもその苦勞の先には、とてつもない楽しみがあるんですよ。その楽しみは、頂上に立った時の絶景であったり、なんでもない山ごはんがとても美味しかったり、豆をミルで挽いて淹れてゆっくりと飲む特別感のあるコーヒータイムだったり、無事に下山した後の温泉でのまったり感であったりと、いろいろとありますが、人間が生きていくために最低限必要であると思われる存在感（他人から認められる）と達成感（自分で認める）の二つを実感できることではないかと思っています。またもちろん登山そのものも楽しいのですが、登山道具をUPDATEしたり、ザックは6個目、靴は3足目、レインウェアは4個目、その他コッヘル・バーナー・テント・シュエラフも揃えてきましたし、登山に向けて道具の手入れや事前準備をしたり、ルートを事前調査したり、特に妻と二人ですので、トイレの場所把握は必須ですので、このような行為そのものもとてもワクワクさせてくれます。

でも楽しいことばかりではなかった一例も紹介します。岐阜県の笠置山にトライした時のことです、低山で特に険しいところもないため大丈夫という安易な思い込みと、登りと下りと同じルートではおもしろみがないという身勝手な判断により、登りとは異なるルートで下山を始めてしまいました。かなり下山した後で完全に道に迷ってしまったのですが、コンパスを頼りに右に行ったり左に行ったりしながら、日も暮れかかってきた中、何とかアス

ファルト道路までは降りてくることはできました。結果的には車を止めた登山口に対して、笠置山をはさんだ反対側に降りつつあったようです。このままでは車を止めてある登山口までは、歩いては帰ることができないと思いながらもさらに下山している途中、なんと偶然にもデイサービス施設を見つけました。休日でしたのでもちろん施設はお休みでしたが、玄関が開いていて一人のスタッフらしき方が見えたので、タクシーを呼んでもらおうと声をかけたら、『タクシーがここまで来るには、空車があってもかなりの時間がかかりますよ、僕が車で送らしましょうか?』と言ってきて、なんと登山口まで送ってくれたのです。人のやさしさに包まれました、その青年は東京から最近転職してきたそうです。東京で何かあったような雰囲気がありましたが、野暮なことは聞きませんでした、本当に優しい青年でした、感謝感激です。改めて思い知ったのですが、登山は基本的には頂上を目指します、ですから頂上への道標はかなりのショートインターバルでかつ分かり易く示してあるのですが、特に単独峰の下山は、登った道を帰ることが一般的ですので、下山用の道標は簡略化されています。登りと違うルートで下山する時や縦走する時は、道迷いに対しての注意を一層深く払わねばならないことを、当たり前のように登山技術として学んでいたのですが、実践できませんでした。つくづくルールを守ることの大切さを肌身で感じました。でもおかげさまで、優しい青年に出会えることができましたので、結果としては幸せでした、反省と感謝です。

そんなこんなでいろいろな山をたくさん登ってきましたが、楽しさより辛さの方が勝ることが少しずつではありますが、多くなってきました、歳のせいです。そこで登山より少し楽かもしれない？旧五街道を歩こうということになり、日本橋から京都三条大橋までの旧東海道と、やはり日本橋から日光東照宮までの日光街道を歩き終えました。旧東海道はそのまま歩けば、総歩行距離は約500Kmくらいだったと思いますが、私たちの総歩行距離は、行ったり来たり無駄な距離も歩きますし、寄り道もしますので、約800Kmにもなっていました。活動パターンは、一泊二日もしくは二泊三日で、登山用ザックに荷物を詰め込んで登山靴をはいて、一旦最寄りの駅まで新幹線や在来線で行ってから、旧東海道に出てその日の区間を歩き、そして夕方にたどり着けるであろう位置にある事前予約したビジネスホテルに泊まり、ほとんどは居酒屋で祝杯をあげます、次の日は朝早くからビジネスホテルを出て旧東海道まで戻って歩いて、たどり着いた次の最寄りの駅から在来線や新幹線を乗り継いで、自宅に戻ってくるの繰り返しです。最もきつかったのは、お察しの通り、箱根峠越えと薩埵峠（歌川広重の東海道五十三次で有名）越えでした。箱根駅伝のランナーはこの道を走るんだよねとか、昔はこの薩埵峠をわらじで越えたんだよねとか、いろいろなことに思いを巡らせながら、ハアハアゼイゼイ汗だくで歩き越えたのをよく覚えています。またある時は、1日あたりの歩行距離は上限25Kmと決めていたのですが、確か浜松宿から吉田宿（現在の豊橋あたり）までは、旧東海道沿いにビジネスホテルがなかったため、1日当たりの最長歩行距離である37Kmを歩き切りました。30kmちょっと過ぎあたりで、あたりは真っ暗になり、さすがにお互い疲れ果てて、最寄りのコンビニに立ち寄り、タクシーを呼ぼうとしたのですが、よりによって1時間か2時間待ちと言われ、仕方なく最寄りの

駅である豊橋駅周辺まで歩かざるを得ない状況になってしまい、妻にひどく叱られたことを覚えています。街道歩きは登山と違って、基本的にはトイレの心配も食事の心配もビバークの心配もほとんどしませんし、ザックの中身も着替えと洗面用具ぐらいなので軽く楽なのですが、いろいろなトラブルは起こります。でも何とか3年越しで、京都三条大橋まで歩き終えた時の達成感と存在感は、やはり格別でした。その後日光街道を踏破し、今は中山道をトライ中です。現在、松井田宿と坂本宿の間にある『峠の釜めし』で有名な横川まで来ています。

こんな趣味もありだなと思っている理由は、平日頃は会社から帰宅後、夕食を済ませると、それぞれの行動（中村は筋トレ・ストレッチ・読書）に入ってしまう、なかなか会話することもないので、このように二人で登山したり街道を歩いたりすると、自分たちの近い将来についてのこと、娘や息子のこと、孫のこと、世の中で起きている旬なことなど、いろいろなことについて、お互いごく自然に話すことができるということに尽きると感じています。

登山の道中は、きつくてあまり会話はできませんが、街道歩きならば全く問題なく会話できます。人が、一人で生きていくためには、自由気ままという面もありますが、一方でとてつもなく大きなパワーが必要だと思います。もちろん二人以上が居れば、意見の相違も含めたコミュニケーションが必要です。どちらもその人その人の人生観ですが、中村はコミュニケーションを大切にしたいと思っていますし、コミュニケーションの基本は会話であり、会話そのものが人を豊かにしてくれると思っています。ですからこそ、今からも頭と身体を少しずつ鍛え続けて、少しでも長く剣道・登山・街道歩きを通じて、妻をはじめとして多くの方々とのコミュニケーションを続けていきながら、また同時に新たなコミュニケーションも切り開けたらと思います。

以上、趣味について中村の勝手な思いを長々と綴ってしまいましたが、最後までお付き合いいただき、誠にありがとうございます。次回、皆さんの趣味とその思いをお聞きできることを楽しみにしつつ、筆をおきます。

誠にありがとうございます。

筆者プロフィール: 中村 元志
1983年 工学部機械科卒
同 年 トヨタ自動車入社
2018年 愛知製鋼へ転籍

2024年の出来事メモ



藤田 恭弘
1988 電子卒
(S63)

この度、この会報に寄稿する機会をいただきましたので、2024年度の1年間の出来事をご紹介しますと思います。

4月末、ゴールデンウィーク。この夏は猛暑の予想との天気予報（長期予報）を見ていたが、すでに体感としても暑い。少し涼しいかと思い、ゴールデンウィークの前半は、岐阜県の養老の滝に行ってみた。ふもとに無料駐車場があり助かる。そこからのんびりと約30分ほどかけて滝まで歩いた。通常、10から15分で滝つぼまで到達できるらしいので、本当にゆったりと歩いたことになる。中高生がはしゃぎながら走って先に行くのを微笑ましく見送った。まだ4月なのに暑さで汗だくになったが、滝つぼ近くは天然のミストで心地よい。



養老の滝

帰りに「天命反転地」なる展示施設に立ち寄ってみた。入場料700円と今どきお手頃。上下反転、傾斜の誤認識など、物理的に錯覚を呼ぶような構造物で錯視を体感する施設。アニメ映画の「聲の形」で主人公たちがデートに行く場面があるが、現地に行ってみて映画における再現性が思いのほか高いと感じた。

5月、ゴールデンウィーク後半。
大津（滋賀県）～京都に旅行。大津市は、石山

寺と延暦寺。石山寺は、紫式部が源氏物語の構想を練ったと伝えられる。NHKの大河ドラマ「光君へ」でも舞台となり、現地の観光関係者（不詳）としては千載一遇の機会なのか（これも不詳）、山門前の菓子店やみやげ物店は紫式部をデホルメした可愛いノボリを作り絶賛売出し中の様相、飲食店もはなかなか盛況だった。延暦寺はご承知の比叡山中で市街地からは車で30分近くかかるが、それでも人が多く混雑し



比叡山中腹から琵琶湖を望む

そして宿を確保した京都に向かう。数年前に清水寺界隈の「京都でも最も混雑する所」は訪れたことがあるので、今回は、少し人混みの少な目な所をチョイス。

京都の1カ所目は、京都北部の鞍馬寺。麓まで



車で。付近の駐車場はどこも満車であったが、たまたまコインパーキングから1台でたところに遭遇。スムーズに駐車でき、ラッキーだった。テレビの紀行もので山門から本堂まで、延々と

石段を登るのを見たことがあったが、今はケーブルカーが設備され本堂までそれほど苦もなくアクセスできる。本堂を見学したあと、さらに奥に進むと「木の根道」に。その名の通り地面に木の根が浮き出て、歩きにくい。そのすこぶる足場が悪いところを利用して、源義経が剣術の鍛錬をしたのだそうだ。そんなことに思いを馳せながら一休み。ここまで登ってきた汗を入れる。



木の根の道

京都でもう1カ所、泉涌寺(せんにゅうじ)皇室との関係性で御寺(みてら)とも呼ばれるそう。13世紀頃の14代にわたる天皇陵の他、皇妃、親王陵墓など39の陵墓を守っているという。しかし、あまり知られていないため、街中は、ゴールデンウィークの観光客に加えインバウンドのツーリストでえらく賑わっていたのがウソのように人がいない。閑散としている。表通りからは少し奥まった立地のためか車の音も聞こえない、静寂な空間がそこにあった。



泉涌寺 大型連休中にも閑散・静寂

9月、当多賀工業会中部支部の若手会員、小田中さんからご紹介いただいた「学生フォーミュラ2024」を見学。学生により設計製作されたフォーミュラカーの競技会(と、小生は理解したがニュアンスが違っていたら申し訳ありません)。例年は静岡で開催されるが、今年は常

滑の愛知国際展示場で行われるという。製作された車両の性能・耐久性など多岐にわたる審査項目で評価するという。私が会場を訪れたときは、丁度、耐久レースの中盤。



茨大チームの車両

我が茨城大学チームは、黒いボディの締まったデザイン。なかなかの成績で健闘していたのだが、しばらく観戦していると、会場の実況アナウンスが異音を指摘。暫くしてマシントラブルによる棄権と発表された。残念。

(5ページにも関連記述)

10月、北海道

登別温泉と札幌に宿泊。千歳空港近くのレンタカー店で車を借りて走り出すとすぐに、広い平原に直線の国道という北海道を彷彿とさせる景色。中学・高校を札幌で過ごした身としては、すっかり忘れていた風景がそこにあり、懐かしい、落ち着く、じっくり来る。

登別温泉を基点に「ウトナイ湖」「倶多楽湖」「洞爺湖」「(力士の)北の海記念館」「地球岬(室蘭市)」・・・見どころはたくさんあるが、なにせ北海道は広く、地点間の距離があるため移動には時間がかかる。特に印象に残ったのが、倶多楽湖の湖面を見渡せる見晴台で車を降りた時。車のドアを閉めて、、、「パタンッ」という音が過ぎ去ると、全くの無音。車の音も人の声も何も聞こえない無音の世界。本当に不気味なほど無音でした。

その日の夜は、登別温泉の源泉地である地獄谷を散策。昼間も訪れたが夜も22時まで開門しているというので、夕食後に再び訪れてみた。源泉地の風景もさることながら、星の数が多い。普段、愛知県に住んでいて「天の川」というものを視認することは、まずないが、ここでは普通の夜空にはっきりと川の流れが見える。さすがに三脚無しで手持ちのデジカメでは写真には収められず、紹介できないのが残念。

北海道の最終泊は札幌にしていた。実は、この日が北海道まで行った主目的。家内を放置して、高校の同期会へ。コロナで中止してから再開のキッカケがなく5年も空白ができてしまったのが、同期全員が(〇ヶ月の差はあっても)

全員が還暦の年。今回の幹事達6人がどうしても再会すると決め実現した格好。中には卒業式以来の顔も。はじめは、何となく敬語で話していたが、ほどなく皆タメ口。40年の歳月が消え去りました。ところで、この会の幹事は、伝統的に毎回の最後に、次回の幹事を無差別に選出する。今回も終盤にパソコンを使った顔写真ルーレット。高速で表示される顔写真が止まった人が次回の幹事。これで6人を選び出す。普段、宝くじも、近所のスーパーの福引すら当たった試しがなく、くじ運の悪い人生と思っていたが、今回は見事に当選。2025年度の札幌の同期会の幹事6名の中に入ることになってしまった。

11月、大阪・宝塚。

大阪・梅田にオープンしたスカイビルを見物。エレベーターで上階まで行って、さらにエスカレーターで隣の建屋のさらに上階に上るしくみ。下を見ると足がすくむが、それを見ないともったいない。



梅田スカイビル 上階から階下を見下ろす
中央の柱(エレベータ)と手前に伸びるエスカレータ

それから、宝塚（兵庫県）に移動。宝塚駅から宝塚歌劇団の劇場の横を素通りして「手塚治虫記念館」へ。ここでは、幼少の頃からトキワ荘時代、大成後のことなど、手塚氏の生涯を作品と共に整理してまとめ上げている。



手塚治虫記念館



天井のアトム



床は手塚治虫の顔

12月、定年退職

12月末日付で60歳定年。まだまだ定年なんて先の話かと思っていたが、とうとうその日がやってきたという感じ。しかしながら、年明けからは再雇用制度で、グループ会社に籍を移して本社の元の職場に派遣スタッフとして入る。派遣スタッフと言うことで仕事内容はかなり軽くしていただいたが、基本的に同じ職場で同じ顔ぶれの中で同じように働くので、退職した実感は全くない。

おまけ

2月、定年で仕事が軽くなって数ヶ月、体力の消費が減少したためか、体重が増加傾向。少し体を動かそうと自宅近くのジムに体験入会。



最後に、この様な駄文を最後までお読みいただいたことに感謝します。

筆者プロフィール

- ・1964年12月 宮城県仙台市生まれ
- ・1988年03月 茨城大学工学部電子工学科卒業
- ・1988年04月 中京テレビ放送(株)入社
- ・2024年12月 同 定年退職
- ・2025年01月 (株)中京エレクトロン再雇用

趣味は旅行。旅行先に温泉があれば言うことなし。

編集後記

毎年、同様の思いですが、今年も会報の刊行に際しまして、まずは会報第12号が無事に刊行できた事を喜び、原稿を寄せてくださった皆様に感謝申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。さて、本誌が皆様のお手元に届く頃は、少しは春が感じられているでしょうか。この冬は記録的な暖冬と言われて始まりましたが3月に入って急に寒冷な気候になりました。気象協会の発表によると、この冬は強い寒波が到来、春の到来は早く花粉飛散は多め、夏は梅雨明け早く猛暑、秋は厳しい残暑で、『メリハリ型』なのだそうです。体調管理には昨年以上に気を配る必要がありそうです。

<表紙のことば>

恒例の佐藤 博泰氏(S37 学金属)<陶芸で巡る世界遺産シリーズ>から、「聖ソフィア大聖堂」です。

～佐藤氏より～

ロシア・ウクライナ戦争の中、文化遺産への影響が出ないことを祈って制作しました。先に制作したロシアの聖ワシリー大聖堂(1561年完成・作品は2018年発行の会報第7号表紙)は、この聖堂(1037年完成)から多くのヒントを得て製作されたものです。現在の姿は、幾多の破壊から修復を重ねてきたもので、箇所により状態が異なり、制作上は苦勞しました。これ以上の災いがないことを祈ります。

<年会費のお願い>

2012年に創刊した「中部支部会報」も、第12号を発行することができました。当会の活動は、皆様方の会費で成り立っています。会の活動を充実し会員のコミュニケーションに役立てたく、会員の皆様には年会費(2,000円/年)のお願いをしています。何卒、主旨をご理解の上、ご協力をお願いします。

◆年会費の振込先

- ・多賀工業会中部支部の預金口座(ゆうちょ銀行)
口座番号 : 00860-1-190609
加入者名 : 多賀工業会中部支部
- ・同封の「振込取扱票」をご利用願います。(振込み手数料は各自でご負担願います)
- ・振込み期限 2025年5月25日

<ご意見・ご要望・寄稿の募集について>

中部支部活動や会報の内容について、会員皆様のご意見、ご要望をお聞かせ下さい。また、次号(2026年4月発行予定)の寄稿をお願いします。テーマは何でも結構です。支部長または編集担当(藤田)宛にメール又はFax等でご連絡をお願いします。

- ・支部長 菅谷 伸夫
メールアドレス sugaya-nmyt@kb3.so-net.ne.jp
電話・F A X 0564-45-5832



菅谷メール

- ・編集担当 藤田 恭弘
メールアドレス fujiyass@ss.ij4u.or.jp
電話・F A X 052-804-8313



藤田メール

発行日 2025年4月
発行者 菅谷伸夫(機械S45)
編集委員 藤田恭弘(電子S63)
蟹江雅司(機械S63)